

野心的な中国海軍と保守的なロシア海軍

漢和防務評論 20140124（抄訳）

阿部信行

（訳者コメント）

漢和防務評論に中露の海軍の現状を比較した記事がありましたので紹介します。

作者の平可夫氏は、中露両国海軍に有力な情報源を持っていますので、この記事から中露海軍の現在及び将来の戦略が見えるようです。

艦船の数や艦の大きさ、建造の速度は、中国がロシアを圧倒しています。

中国の最近の海軍急拡大の動きは、将来米国海軍の戦力に対抗しようとする動きにほかなりませんが、ロシア海軍は米国と水上艦艇で対抗する戦略を放棄し、戦略核ミサイル潜水艦部隊に特化する戦略を選択したように見えます。

KDR サンクトペテルブルグ平可夫、**YURI BASKOV** 特電：

ロシア海軍は、現段階で新たな空母の建造を放棄した。サンクトペテルブルグにおけるロシア海軍装備会議の記者会見の場で、**KDR** 記者は聯合造船集団副総裁 **SERGEY N.FORAFONOV** に対し次のように質問した。

KDR 記者：私は、4年前にも2年前にもこの場において、貴方の同僚に同じ質問を行った。すなわちロシア空母の建造についてである。2年前、貴方の同僚は、ロシアは2018年に新時代の8万トン級原子力空母の設計を開始し、建造に取り掛かる予定だと述べた。現在の進展状況はどうなっているか？

MR.FORAFONOV：“我々は、確かに海軍に対し初期の計画を提出した。しかしこの問題の決定権は我々にはなく、海軍自身が決定する。我々は製造を担当するだけである。総じて明確な時間表などはなく、期限を示した空母建造計画はない”と。

ロシア造船工業会のその他の消息筋は、**KDR** に対し：原子力空母建造問題は実際上すでに棚上げとなっている。なぜならばロシア国防부는、ロシア海軍が近い将来空母を必要とする理由を認めないからである。しかし現有 **KUZNETSOV** 空母を維持することは明確に決定されている。このためロシア海軍は、艦載機を **MIG-29K** 型艦載機に換装する、と述べた。

一方の中国海軍は、“イージス級”ミサイル駆逐艦を続々と建造しつつある。現在すでに8艘目を建造し、更に複数空母の設計と建造に着手している。周辺国を圧倒する野心に満ちた中国海軍に比べると、ロシア海軍水上艦艇の建造は

遅々として進まず、ますます縮小している。ロシア海軍は、この 2 年間大きな変化はなかった。

しかしある点は、極めて明確になっている。それは、ロシア海軍が有効な海上核打撃力及び核抑止力を維持することを決定したことだ。したがって 2013 年は戦略核ミサイル潜水艦 (SSBN) を集中して建造しており、建造速度は速い。しかし水上艦艇及び海軍航空部隊の建設を最重要視してはいないようだ。一方の中国海軍は、大型水上艦、通常型ディーゼル潜水艦及び海軍航空部隊の建設を推進すると同時に、新時代の SSBN の建造にも注力している。

ロシア海軍の司令官 V.V.CHIRKOV 大將は、サンクトペテルブルグにおける海軍装備展覧会に参加した。展覧会において彼は、ロシア海軍の長期計画について詳細に語った。確かにこの長期計画の中に空母の位置づけはなかった。

まず第一に、955 型 SSBN である。ロシア海軍司令官は、” 2020 年までに 8 艘の 955 型 SSBN を保有し、そのうち 1 艘目の YURI DOLGORUKY 号は 2013 年にすでに海上試験を完了した。現在 2 艘目 955 型 SSBN の海上試験を行っており、3 艘目及び 4 艘目は現在建造中である”と述べた。このほか、ロシア海軍は、855M 攻撃型原子力潜水艦 (SSN) の建造を加速させようとしており、1 艘目の 855M は 2013 年に海上試験を完了し、2 艘目の 855M は現在建造中である。ロシア海軍は 2020 年までに 6 艘の 855M を建造する。改良型の 949M 型は現在設計中である。ロシア海軍は、最終的に 2025 年までに 16 乃至 18 艘の攻撃型原子力潜水艦を要求している。

KDR は、原子力潜水艦の生産計画に関して、中国海軍に比べロシア海軍の方が規模がはるかに大きいのではないかと考える。

水上艦艇について、V.V.CHIRKOV 大將は次のように述べた：2030 年までにロシア海軍は、40 艘の 20380 型 2000 トン級パトロール艦及び 16 艘の 11356R 型及び 22350 型ミサイル駆逐艦を導入する、と。この 2 種類のミサイル駆逐艦のトン数は 4400 トン前後であり、この大きさの艦艇は、現在中国海軍が大量に保有している 045A 型ミサイル駆逐艦のトン数とほぼ同じである。ロシア海軍は 2010 年に購入した 6 艘の 11356R 型ミサイル駆逐艦をインド海軍に輸出するため 11356 型に改修した。11356R 型は、射程 50 KM の垂直発射型 SHTILE-1 型艦対空ミサイルに換装される予定である。現段階は 3 艘が TANTAR 造船工場で建造中であり、2016 年にはロシア海軍は全部で 6 艘の 11356R 型ミサイル駆逐艦を受領する。

22350 型ミサイル駆逐艦の満載排水量は 4500 トンであり、現在中国海軍が建造している 052D 型ミサイル駆逐艦の排水量の半分である。引き続き中国海軍は、万トン級の水上戦闘艦を建造すると宣伝している (呉勝利司令官発言)。現在ロシア北方造船所は 2 艘の 22350 型を建造中であり、2013 年及び 2014 年に 1 艘

づつロシア海軍に交付されるはずである。計画では更に 1 艘建造する予定である。当然強く印象に残ったのは、フランスから輸入した MISTRAL 型大型ドック型揚陸艦（満載排水量 21000 トン）であり、1 艘目のロシアでの分割生産はすでに終了し、今後組立が始まる。2 艘目の竜骨は 2013 年に設置される。MISTRAL 型大型ドック型揚陸艦は、2014 年及び 2015 年にロシア海軍に交付される。そのうち 1 艘は、ウラジウォストークに配備される。

現在建造中のその他の艦艇で 5000 トンを超える大型艦は、5500 トンの P11711 型ドック型揚陸艦のみである。ロシア海軍司令官の話によると、2020 年までに 6 艘建造する予定であると言う。衆知の通り、中国海軍が現在建造している揚陸艦は、満載排水量が少なくとも 13000 トンの 071 型大型揚陸艦であり、最初に生産されるグループは 4 艘である。

ロシア海軍航空部隊の発展速度は、中国海軍にはるかに及ばない。ロシア海軍司令官は、” 現在の計画はまず第一に SU-33 から MIG-29K への換装であり、2013 年には 2 機の MIG-29K と 2 機の MIG-29UBK の受領を開始し、2014 年に MIG-29K を 8 機と MIG-29UBK を 2 機受領する。残りの 10 機の MIG-29K は 2015 年に換装する” と述べた。合計機数は 24 機である。一方の中国海軍は、現在 8 機の J-15 型艦載機を装備し、現在の生産速度から見て 2014 年には最初の 24 機が揃う可能性がある。中国海軍の現在の問題点は、技量優秀なパイロットが不足していることである。

以上